

Title	インタビューにおける質問の展開方法： 「つなぎ表現」を焦点として
Sub Title	
Author	田中, 妙子(Tanaka, Taeko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2011
Jtitle	日本語と日本語教育 No.39 (2011. 3) ,p.37- 48
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20110300-0037">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20110300-0037</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# インタビューにおける質問の展開方法

——「つなぎ表現」を焦点として——

田 中 妙 子

## 1. 研究の目的

大学院等での専門教育を受ける留学生が、社会調査の一環としてインタビューを行うという機会がある。非母語話者にとってのインタビューの難しさは、必要な質問をしながら、相手の回答内容を理解し、それに基づいて次の質問を用意するというように、会話の流れを自発的に形成する活動が求められるところにある。こうした困難を解消・緩和するために、日本語教育においては、どのような語彙・文型・表現を扱い、どのようなコミュニケーション技術を習得させるべきであろうか。その資料となる基礎的なデータを集め、効率的な指導法・指導内容を検討することが本研究の目的である。

その研究過程の一つとして、本稿では、インタビュアー（以下、質問者）がインタビューに答える相手（以下、回答者）とのやり取りの中でどのような表現を用いて話題を展開させていくのかということ、**「つなぎ表現」**、すなわち回答者の発話と自分自身の発話をつなぎ表現に焦点を当てて分析したい。

## 2. 日本語教育の観点から見たインタビューに関する先行研究

日本語教育への応用を念頭に置いてインタビューコーパスを分析した近年の研究として、日野 (2008)、黄 (2006)、黄 (2009) などが挙げられる。

日野 (2008) は、上級日本語学習者が日本語母語話者に対して行ったインタビューのコーパスを用いて、聞き手としての働きかけ行動を、①あいづち詞 ②繰り返し ③情報要求 (反復要求・確認要求・説明要求) ④先取り ⑤応答という五つの観点から分析した。その結果、学習者の問題点の一つとして、「インタビュアーとして必要と思われる相手の話の内容に興味や共感を示す応答表現や、話の内容をまとめてから次の質問項目につなげるための応答発話が少なくなっている」ことを挙げ、「これまでの会話教育が、自らの発話意図の産出と相手の発話内容の理解に焦点がおかれ、聞き手としての積極的な働きかけの行動の育成という概念が欠けていた」と指摘している。

黄 (2006) は、インタビューの問いかけにおける「前置表現」に注目している。「前置表現」とは「発問機能を持つ部分の直前に現れる表現」のことで、この表現には、発話者から見た効果として「話の内容を考えるための時間稼ぎ、話題の切り替え予告、応答側の自発的な情報提供を引き出す効果、自己主張の緩和など」があるとしている。

また、黄 (2009) は、日本語と台湾国語 (台湾で用いられている中国語) によるインタビューコーパスによって、情報要求の表現形式を対照分析している。情報要求は明示的なものと暗示的なものに分けられ、いずれの言語においても暗示的なものの比率が高い。また、明示的な情報要求は、ネガティブ・フェイスへの侵害を回避するために、「前置き表現」や「補足表現」などを用いて緩和措置を取っていると指摘する。

本稿では、これらの知見を踏まえ、日本語教育における教授項目を検討する一助として、具体的な表現の多様性を見たい。日野 (2008) の「相手の話の内容をまとめる発話」や黄 (2006) の「前置表現」と一部重なる表現も扱うことになるが、ここでは会話の展開という観点から、回答者の発話を受けて、質問者が自身の発話をどのように提示していくかという部分を観察し、その指標となる表現を抽出することとする。

### 3. インタビューにおける質問者の発話

本稿では、インタビューという目的を持つ会話における質問者の発話を質問発話と応答発話によって成り立つものとする。質問発話の中核は情報要求であるが、その前または後ろに何らかの形で情報要求を補足する表現が含まれることがある。一方、応答発話は回答者の発話に対する何らかの反応を示す発話で、あいづち、回答者の発話に対する意見・感想などを述べる表現を含む。典型的なやりとりは下記ようになる。

質問者：失礼ですが、ご職業は。【質問発話（補足+情報要求）】

回答者：コンピュータのソフト開発です。

質問者：ああ、そうですか。大変そうですね。【応答発話】

どのようなソフトを作っていらっしゃるんですか。【質問発話（情報要求）】

林 (1973) は、文章を構成する各文を「文章の流れに参与する姿勢」という観点から、始発型、承前型、転換型というように分類し、それぞれの型を持つ各文が次々と関係を作って一まとまりの文章の流れを作っているを見る。同様のことは会話における各発話にも言えることで、ある発話は前の発話を受け、次の発話を呼び起こす働きをする。本稿で扱うのは、このように回答者の発話を受け、それを次の質問につなげる働きを持つ発話である。典型的なやりとりは下記の下線部のようなものである。

質問者：失礼ですが、ご職業は。

回答者：コンピュータのソフト開発です。

質問者：ああ、そうですか。大変そうですね。

ソフトって言いますと、例えばどんなものを作っていらっしゃるんですか。

下線部の「ソフトって言いますと」という発話は、回答者の〈職業はコンピュータのソフト開発である〉という意味の発話を受け、〈次にそのソフト開発について質問したい〉という予告をし、〈例えばどんなソフトを作っているのか〉という情報要求につなぐ働きをしている。このような発話を

本稿では「つなぎ表現」と呼ぶことにする。

なお、情報要求発話の種類としては下記のもの挙げられる。

- (1) 「(疑問詞+)～カ」「(疑問詞+)～ノ(↑)」
- (2) 「明日行きます(↑)」「もう見ました(↑)」等、肯定文の文末イントネーションを上げる発話
- (3) 疑いを示す「～カシラ」「～カナ」を用いた発話
- (4) 同意・確認要求を示す「～(ヨ)ネ」「～デショウ(↑)」を用いた発話
- (5) 文末が省略されているが、文脈等から(1)～(4)の再現が可能な発話
- (6) 「教えてください。」「説明していただきたいのですが。」等、情報の提供を要求する発話

#### 4. 資 料

インターネット上で公開されている「インタビュー形式による日本語会話データベース」(稿末「用例資料」参照)の中から、18組合計約5時間30分のインタビューに関する文字化資料を用いた。質問者は6名である。

インタビューの本質は質問者が、必要とする情報の提供を回答者に求めることであるが、質問者の性質は様々である。例えば、著名人によるテレビのインタビュー番組などでは、質問者の個性や語りのおもしろさなども重視され、視聴者という第三者への配慮もあるため、質問者の反応が誇張される、第三者目当ての説明的な発話が入る等の特徴が見られる。

本稿で扱う資料にも、一部第三者目当ての説明的な発話が入るものがあるが、ほとんどは質問者と回答者が相手のみを意識してやりとりをしているものと見られるため、教育への応用を考える資料としてはより適当であると考えられる。

なお、用例は【 】内に略号を記し、詳細は稿末の「用例資料」に示す。また、用例はいずれも「1:」が質問者の発話、「2:」が回答者の発話を表す。

## 5. 分 析

用例から以下の五つの形をとるつなぎ表現が観察できた。

- (1) 指示表現
- (2) 意味的関連
- (3) 接続詞
- (4) 論理的帰結
- (5) 引用

### 5-1 指示表現

文脈指示として、「それ」「その」「そこ」「そんな」「そういう」「そういう」というような「ソ系」の指示表現によって回答者の発話を受け、それについて新たな質問発話を行うものである。数としてはソ系の指示表現が圧倒的に多いが、本稿の資料ではインタビューの途中で質問者と回答者によるロールプレイが入るため、そのロールプレイ（アルバイトに関するやりとり）の内容を指して、「こういうアルバイトは絶対しないですか？【J09】」というようにコ系の指示表現で質問者と回答者が共通に行った行為を指し示し、それについて情報要求をするものも見られた。

また、回答者の発話内容を大まかに指し示すものとして、「その辺」という表現が特徴的に見られた。例えば、プリンストン大学の学生の学習態度の良さや積極性について評価する回答者の比較的長い発話に対して質問者が「その辺はどうしてそう、なんですかね。【P03】」と理由を聞くというように、発話全体を大まかに捉えて質問する方法としてこの表現が用いられている。

### 5-2 意味的関連

表現形式上の特別な型はなく、意味の面で何らかの関連性を持つ表現を用いることにより、回答者の発話を受けて次の質問につなげるものである。表現形式の規則性を挙げることは難しいが、今回の調査では回答者の発話内容を限定する発話と、メタ言語表現を用いる方法で次の質問につな

げるといふ発話が特徴的な指標として見られた。例 1, 例 2 は回答者の発話内容を限定するつなぎ表現である。「～以外に」「～の他に」のように回答者の発話内容以外の情報を要求するものと、「～の中で」のように回答者の発話内容を更に特定する情報を要求するものがある。

(例 1) 2: あーそうですね、でも、あの例えば僕ーはあのスケートとかも好きなので、(1: あー) でよく友達ーとあのスケート仲間がいるので、(1: うん) あの後楽園とか行って、ええ。

1: そうですかー。いえ、何か、あの、お、スポーツは、あのースケート以外になさいますか。【J08】

(例 2) 2: そうですね、(1: うん) ええっと、スポーツに興味はあるんですけどー特にそう、始まる前から (1: うん) どのこのうのということはないとー (1: うん) ええ。

1: スポーツの中でも何か特別、好きなスポーツとか? 【J05】

例 3, 例 4 はメタ言語表現を用いて、回答者の発話を更に限定していくものである。

(例 3) 1: もうちょっと具体的に話して頂けます? 【P04】

(例 4) 1: うん、そういうんでね、うんうん。でついでですけども、最近もあの、新聞でも、あのー連載してましたがドーピングなんていうのは (2: あー) どういう風に思いますか? うん。【J02】

このような表現の中で特に目立つのが、話題の転換を表すメタ言語表現である。

(例 5) 1: そうですか。あの、ちよつと話が変わりますけども、(2: はい) あの大学生って最近アルバイトなんかは、(2: ああ) するん、してるんですか? 【J07】

この種の表現として、以下のようなものが挙げられる。

「話が変わりますけれども、…」 「ちよつとあの話をえてね、…」 「ちよつと話題を変えて、…」 「ちよつと話が飛びますけども、…」 「～の話はそれぐらいにして、…」 「別の質問の仕方をしますけど、…」

また、一度転換した話題をまた元に戻すという場合に、以下のような表現が見られた。

(例 6) 1: あああの、神戸のね、大地震ー、にちょっと話を戻しますけれども、…  
【P03】

(例 7) 1: それじゃ話をその宗教的なことから戻して、… 【P03】

### 5-3 接続詞

接続詞のうち、逆接の「でも」「だけど」、転換を表す「ところで」、相手の話を促す「じゃあ」「それで」「すると」などが、つなぎ表現として挙げられる。

「でも」「だけど」は逆接の接続詞であるが、インタビューにおいては論理的な逆接だけでなく、回答者の発話内容から疑問に感じたことや納得できないことを更に質問する場合にも用いられる。例 8 では下調べをしないで旅行をするのが好きな回答者が旅行先でたまたま美術館に立ち寄ったという話を受けて、〈前もって調べておかないと見たいものを見逃して後悔することがあるのではないか〉という意味の疑問を投げかけている。また、例 9 では西洋の絵画の中で印象派、特にモネが好きだという回答者に対して、印象派の中で特にモネが好きなのはなぜかという疑問を示すために「だけど」を用いている。

(例 8) 2: いえ、やっていたのでたまたま。(1: たまたま行くという感じで)はい。

1: ああ、そうですか。でも、前もって調べとかないと、あの、ああ、見とけばよかったって (2: ああ。) いう風なこともありません。【J03】

(例 9) 2: えっとー、一般的なんですけど、(1: うん) モネ、が、(1: ああー) クロード・モネが、(1: ああー) 好きです。

1: そすとー、その一連の印象派ーの絵に、(2: はい) だけどその中でどうしてモネーに特に惹かれるんですか。【P03】

「ところで」は話題の転換を示すものとして挙げられる。ここで言う転換とは幅広い現象で、例 10 のように「アルバイトの時給」から「夏休みの予定」へと全く異なる話題に変わるものだけでなく、例 11 のように、「韓国」という共通レベルの話題の下で、「韓国の留学生の来日目的」から「韓国へ行った経験があるか」という話題へと視点を変えて展開させるというもの



も含まれる。

(例 10) 2: バブルのと、(1: うん) がはじける前の人 (1: うん) っていうのは (1: うん) ほんとになんか、時給も千円は当たり前みたいな (1: うんうんうん) 時もあったよって言っててすごく今、からすると羨ましいですね。(1: うーん) ええ。

1: なるほどね、ああそうですかー。はい。あのところでもうそろそろ夏休みなんですけれども、(2: はい) 何か、予定がありますか? **【J02】**

(例 11) 2: (略)ええ、なにかこう新しいものを日本へ来てどうして学ばなければいけないのかという、あのー私などは疑問があるんですが、そのへんは私が韓国に実際にいって生活ーしないとどうも分からない、あのー心理が、心理的な面が、あるような気がして、ずっとおりますが。

1: あーそうですか。(2: ええ) ところで、その韓国に行って、行ってごらんになったことは? **【J01】**

「じゃあ」「すると」「そうしたら」「それで」「で」などは回答者の話を促すものとして用いられている。

(例 12) 1: (略)専攻は、(2: えー、専攻) なんでいらっしゃる?

2: 社会科学科で歴史をやっております。

1: あーそうですか。じゃあ、将来就職は、どちらの方面を考えていらっしゃるんでしょう? **【J10】**

(例 13) [回答者の以前の選考は美術であったという話題の後で。]

2: 実は今は (1: そうしたことー)、もうあまり (1: しないんですか) してなくて、(1: ああ、それは残念ですねえ) そうですねえ。陶芸が好きなので、陶芸は行きたいなと思ってるんですけども、(1: うーん、うーん) ちょっと最近は忙しくて、あのー、していません。

1: ううん。すると絵ー、絵では、例えば、ま西洋的なね、(2: はい) 絵画とかで、誰が好きですか。 **【P03】**

(例 14) [回答者の専攻についての話題]

2: (略)今は機械工学/(1: うーん) 機械宇宙工学っていうんですか、ここでは。

1: あ、宇宙工学。

2: 日本ではあんまり区別がつけられてないみたいですけど。

1: あ、そうなんですか。そうしたら、じゃ将来どんなお仕事をしたいんですか？【P04】

(例 15) [回答者がこれまでに小学校、高校、大学の三度、アメリカで生活した経験があるという話題の後。]

2: (略)ええと少し、英語の言葉自体に慣れたぐらいで、(1: ああー、そうですか) えっと、日常会話が、分かるようになったぐらいであり話してませんでした (1: うーん)。

1: ああーそうですか。(2: はい) それで二度目の高校ー、来たときは二年間、(2: は、一年でした) ああいやそう、ああ一年間、(2: はい) その時はどうでしたか、その終わりの時点では。【P01】

(例 16) 2: 二時からだと、(1: うーん) 最後までなんですけど、普通最後っていうと、(1: うん) その九時半とか、遅い時で十時十一時までなっちゃう時もあったんで、(1: ああーそんなになるんですか、うん) ええ。

1: で食事は、どうするんですか？【J02】

#### 5-4 論理的帰結

回答者の発話を受け、その内容から論理的に帰結することについて質問したり確認したりするものである。

(例 17) 2: で、女性ーのーまあそういう、うん、立場だとかー (1: ええ、ええ) 歴史的なことだとか (1: ええ、ええ) そういうことを勉強していきたいと思います。

1: あーそうですか。じゃ、卒論もそういう線で (2: ええ) まとめるということですね。【J04】

(例 18) [回答者はアメリカでクロスカルチャーのコンサルタントをしている。そのような仕事を統括する団体があるのかという質問に対して。]

2: (略)ですから、あの、同業者としてそういうことを主な仕事としていらっしゃる場所はですね、大体社会学でページをもっている人が多いですね。(1: なるほどね) 元大学政策員がほとんどじゃないですか。

1: ああそうですか。(2: はい) そうすると日米というのは、もちろん高井さんだけではなくて、かなり複数の人間がそういうことをやっているわけですか。【P05】

このような表現としては以下のようなバリエーションが見られた。

「じゃあ～ですか／ですね／ということですね／わけですね／Vて」

「そうすると～ですか／かね／じゃないんですか／ということですか／ということですね／でしょう／わけですか／わけですね」

## 5-5 引用

回答者の発話の一部または全体を引用し、それについて何らかの質問をする場合である。最も代表的なものは取り立て助詞等を用いて、回答者の発話を反復するものであるが、それ以外の形として顕著に表れるのは複合辞によって主題化するもの、メタ言語表現によって回答者の発話に言及するものである。

主題化するものは、例 19～21 のようにいずれも引用の「と／って」を用いて回答者の発話を受け、それについて質問を行っている。

(例 19) 1: はは、難しいかなー。(2: うーん) うーん、岩淵さんが、(2: はい) あの一、学校に行っていた (2: はい) 時代ね、(2: はい) そういういじめとかってありました？

2: あー、／それはーもう。(1: やっぱり?) それはもう、ありました。

1: うーん、それって今のいわゆる新聞で、とかニュースになるようないじめと違いますか？【J07】

(例 20) 2: ええとー、自分の専攻分野はま、あの、一応国際コミュニケーションなんですけど、(1: 国際コミュニケーション) でもそれとは全く関係のないような、写真とか、(1: うん) あと、／うーん、絵とか、(1: うん) あとドイツ語とか (1: うん) そういうのばっかり取ってて、実際、こっちの学校に移った単位っていうのも、あの、3 単位か 4 単位ぐらいで、(1: うーん) ええ少なかつたんですけど。

1: ああそうですか。あの国際コミュニケーション、て、いうと、どういう、あの、ような、ことですか？ (2: スー、ふふ) ちょっと教えてく、下さい。【J02】

(例 21) 2: ええ、今、ちょっと、あの、その、地域研究の方の (1: うん) 基本文献を読もうかなあと思って (1: うん)、文化人類学の古典のヌア族っていうのを読んでいるんですが、(1: うん)、あの一、それがすごく面白いです。

1: ヌア族っていうのは (2: はい), あの, どの部族ですか。【J03】

形としては以下のようなものが挙げられる。

「～って」「～というと／～っていうと」「～というのは／～っていうのは／～ってのは」

メタ言語表現としては, 例 22～24 のように「言う」「聞く」に関連する語彙を使って, 回答者の発話内容に言及し, それについて何らかの質問をするという形が見られる。

(例 22) 1: ああー, (2: はい) そうですねー。はい。えーと留年で, おっしゃたけれど, 留年しようと思った, (2: ふふ) 動機というか。【J02】

(例 23) 1: うーん。／さきほど, そのー, 思いつめて自殺しようとして, 考えられたお母さんの話がありましたけれども, (1: うん) だいたい, お父さんの存在はどうでしょうか。やはり…。【P09】

(例 24) 1: はあー, そうですねー。(2: はい) じゃあ, その, 学生時代にうちこんだことってゆうような質問されるってことでしたけど, (2: はい) あのー学生時代は何か, (2: うん) うちこんだことなさいましたか?

【J10】

形としては, 以下のようなものが挙げられる。

「～とおっしゃいましたけれども, …」「さっきおっしゃっていた～というのは, …」

「～っておっしゃいましたよね。」

「～こと言っていましたけど, …」「～とかねー, 言っていましたけど…」

「～というお話でしたけれども, …」「～っていう話でしたけど, …」「～の話がありましたけれども, …」「～の話が出ましたけれども, …」

「～ってことでしたけど, …」「～ということですが…」

## 6. おわりに

以上, つなぎ表現に焦点を当て, 回答者の発話をどのような形で受けて次の質問につなげるかを考察した。更に多くの資料に当たり, インタビュー技術として教えるべき項目の体系化を図りたい。また, 日本語学習者の実際のインタビューにおけるつなぎ表現の出現傾向についても検討し

たい。

### 用例資料

「インタビュー形式による日本語会話データベース」(<http://www.env.kitakyu-u.ac.jp/corpus/>)

平成 8-10 年度文部省科学研究費補助特定領域研究「人文科学とコンピュータ」公募研究（「日本語会話データベースの構築と談話分析」研究代表者 上村隆一）の成果による。

本稿とデータベースにおける略号の対応（本稿／データベース）

国際基督教大学のデータ

J01/M. A. (F) J02/T. A. (M) J03/T. A. (F) J04/W. A. (F) J05/Y. I. (F)

J06/Y. I. (M) J07/C. I. (F) J08/K. N. (M) J09/K. O. (F) J10/M. O. (M)

プリンストン大学のデータ

P01/E. Y. (F) P02/T. N. (F) P03/Y. J. (F) P04/M. I. (M) P05/T. T. (M)

P06/K. A. (M) P07/O. T. (M) P09/K. S. (M)

### 参考文献

黄 英哲 (2006) 「日本人インタビュアーの問いかけに見られる前置表現」『台湾日本語文学報』第 21 号 台湾日本語文学会。

黄 英哲 (2009) 「インタビュアーの情報要求に見られる表現形式について—日本語と台湾国語の対照研究—」『日語研究論文集—日語研究の新視野—』致良出版 (台湾)。

林 四郎 (1973) 『言語教育の基礎論 1 文の姿勢の研究』明治図書。

日野純子 (2008) 「上級学習者の聞き手としての談話行動—インタビューにおける聞き手としての働きかけ—」『第 19 回第二言語習得研究会全国大会予稿集』。